

細菌性胃腸炎

愛媛生協病院

消化管感染症は、生活環境の改善、食品保存法の改良、有効な抗菌薬の登場などにより、その発生件数は減少しています。しかし、時に集団感染を引き起こすため、注意が必要です。

【症状と原因菌】

発熱や嘔吐・下痢、腹痛が一般的ですが、血便が出たり、頭痛・めまいなどの脳神経症状が出たりすることもあります。小児ではサルモネラ属、カンピロバクター、病原性大腸菌が三大原因菌で、他に腸炎ビブリオ、ウェルシュ菌などで起こります。黄色ブドウ球菌やボツリヌス菌は毒素を産生し、それにより胃腸症状が起こります。

【診断】

確定診断には便の細菌培養検査が不可欠ですが、原因菌の判明までには5～7日間必要です。そこで、症状や便の性状、潜伏期間、摂取した食品などが診断の手がかりになります。また、急性胃腸炎では集団発生がしばしば起こり得るため、周囲の感染状況や集団発生の機会となる外食、行事、海外渡航などのイベントの確認も重要となります。

【治療】

対症療法（症状に応じた治療）や抗生剤治療を行います。

1) 脱水症の進行を阻止する水分摂取

嘔吐している場合、絶食で消化管を休ませつつ、脱水を防ぐために少量の水分（スプーン1杯程度）をくり返し与え続けます。こうすることで、嘔気があっても一部しか吐かずに大半を小腸から吸収させることが可能になります。嘔吐が数時間で止まったら、水分を自由に尿が出るまで飲みます。尿が出て食欲が回復し始めたら、食事を徐々に再開していきます。下痢が起こり脱水になりかけたら、再び水分のみを与え、食欲の回復を待ちます。このようにして、脱水症の進行を抑えます。水分摂取に関しては経口補水液が最も優れており、スポーツドリンクと比べても電解質濃度が高く、糖の濃度が低くなっており、水と電解質を素早く吸収することがで

きます。

代表的な経口補水液として、OS-1（大塚製薬）、アクアソリタ（味の素）、アクアサポート（明治）、アクエリアス経口補水液（コカ・コーラ ※普通のアクエリアスではない）などがあり、種類もドリンクタイプだけでなく、ゼリータイプや粉末タイプがあります。

2) 抗生剤による治療に関して

胃腸炎は自然治癒傾向が強く、細菌感染症であっても、抗菌薬を必要としない場合もあり、全身状態が良好であれば、便培養の結果判明を待つ場合もあります。逆に、①症状や便性（血液・膿の混入）、周囲の状況から細菌感染を強く疑う場合、②高熱を伴い全身状態が不良で菌血症を疑う場合、③白血球・CRP などの炎症反応が高値の場合、④乳幼児で細菌感染症を疑う場合、には細菌検査を進めながら、抗菌薬投与を検討します。

3) その他、留意点

トイレがすぐに利用できるように安静が望ましいです。明確な出席停止期間はありませんが、少なくとも症状が治まるまでは登園・登校せずに自宅安静が必要です。また、水分を口から摂れなかったり、頻回に嘔吐や下痢を催したりして脱水状態になった場合や、症状が長引き時間とともに悪化する場合は病院を受診しましょう。

【予防】

急性胃腸炎に関しては、予防が最も重要です。一般的な予防法として十分な手洗いはもちろんのこと、食品の衛生管理と加熱処理が大事です。料理には新鮮な食材を用いること、まな板・包丁などの調理器具を殺菌消毒すること、食材の十分加熱することが必要です。胃腸炎は食べ物からだけでなく、ペットや人からの二次感染も起こり得るので、特に小児では注意が必要です。

(2023. 7. 21)